

2020年1月23日
株式会社クラレ
代表取締役社長 伊藤正明

2020年度安全に関する行動方針および海外プラント安全監査の結果について

2020年1月の取締役会で、当社グループの2020年度の安全に関する行動方針、および2019年度より新たな取り組みとして実施した海外関連会社の主要化学プラントに対する安全監査結果の報告を行いましたので、お知らせいたします。

記

1、2020年度の安全に関する行動方針

- ・「安全第一、生産（工事・開発）第二」を徹底すること
- ・行動前の「危険予知」と行動前後の「確認」を徹底すること
- ・全ての社員が「安全」に対して積極的に行動すること

当社グループは「安全はすべての礎」という行動原則を企業ステートメントで掲げ、安全活動マネジメント規則に則り、毎年、安全に関する行動方針を策定しております。

2、海外プラント安全監査の実施

(1) 目的

海外関連会社 Kuraray America Inc.のエバル工場は1986年に稼働を開始して以来、大きな保安事故を起こすことなく規模の拡大を進めてきましたが、2018年5月に火災事故が発生し、外部委託業者の作業員多数に負傷者を出す結果となりました。同工場は既に再発防止の諸施策を講じた上で運転を再開していますが、海外関連会社の生産現場において、今まで出来ていたことが出来なくなっていないか、項目に抜けや不足が無いのか、長年にわたる安定操業が安全に関する過信・慢心に繋がっていないのかという観点も踏まえ、2019年度より海外主要化学プラントの安全監査を実施し、安全対策の見直し・強化を図っています。

(2) 2019年度の海外プラント安全監査によって抽出した改善点

① マネジメントシステムの改善

- ・変更管理の具体的手法の見直しと変更後の確認を徹底すること
- ・特定作業の許可・承認権限について具体的事例の記載を追加し、さらに明確化すること

② 教育・訓練の充実

- ・プラントの高リスク項目（危険源）に関する教育をさらに充実させること
- ・緊急対応マニュアルの見直し・改善、および従業員への周知を徹底すること

③ リスクアセスメントの拡大

- ・非定常（立上げ、停止時）作業にHAZOP（危険源の抽出と対策）を導入すること
- ・文章により標準化されていない作業をゼロにすること

今後、クラレ本社主導のもと、各海外関連会社で抽出した改善点に順次対処し、引き続き「安心して働ける会社、事故や災害の起こらない安全な会社」の実現をグローバルで目指していきます。なお、海外プラント安全監査は2020年以降も継続して実施してまいります。

以上